FXLOG 取扱説明書

2003/04/03 沼田

1。概要

FXLOG は VERA 観測ログから FX 相関器用の入力ログを作成するプログラムです。
ログ作成には観測スケジュール(*.sched)と観測ログ(*.result)を使用します。
これらのファイルは oper マシンの /usr2/mng/ 以下に格納されています。
本プログラムは oper マシンにインストールして使用して下さい。

2。インストール

oper マシンに RPM 形式の fxlog パッケージをインストールしてください。

```
% su
# rpm -ivh fxlog-1.0.1-1.i386.rpm
```

インストール操作により以下のファイルがインストールされます。

```
/usr2/bin/fxlog                 ..... 実行プログラム
/usr2/cfg/fxlog/fxlog.cfg       ..... 初期設定ファイル
/usr2/cfg/fxlog/catalog.txt     ..... 天体カタログファイル
```

使用する各ファイルは以下のディレクトリに格納するように設定されます。
必要なら初期設定ファイルをエディタ等で修正して下さい。

```
/usr2/mng/sched     ..... 観測スケジュール
/usr2/mng/result    ..... 観測ログ
/usr2/dat/fxlog     ..... FX 入力ログ格納先
```

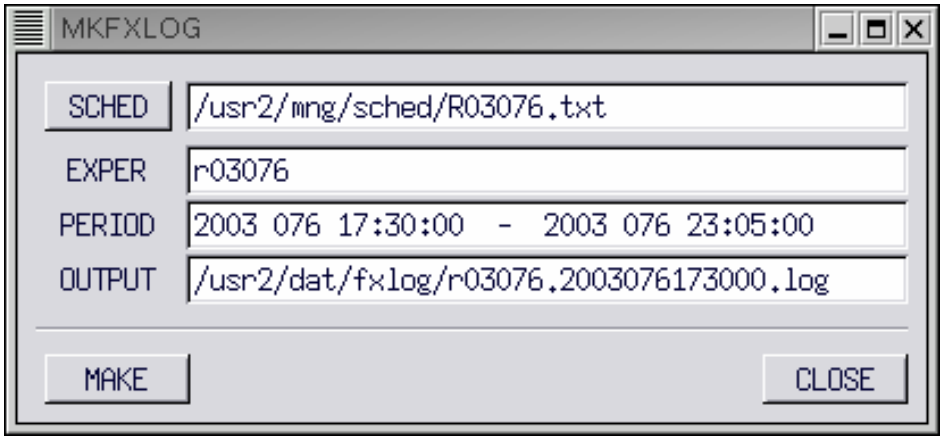
3。操作

コンソールから fxlog を起動します。

% fxlog &

プログラムが起動すると、操作用の GUI 画面が表示されます。

[SCHED]ボタンでスケジュールを選択します。
実験名と時間が表示されるので、正しいスケジュールである事を確認して下さい。



[MAKE]ボタンが押されると OUTPUT に表示している名前でログを生成します。
[CLOSE]ボタンが押されるとプログラムが終了します。

※　スケジュールファイルを指定してプログラムを起動する事もできます。
　　この場合はＧＵＩ表示を行わずログを作成し、すぐに終了します。
　　　　％　fxlog　ファイル名

4。観測スケジュールから抜きだされるログ項目

/EXPER/
/STATION/
/LO/

5。観測ログから抜きだされるログ項目

アンテナ(TSU)

/SRCA/
/SRCB/
/ONSOURCE/
/WX/

レコーダ(rec2000)

/ST/
/ET/

6.その他のログ項目

固定のログ項目は初期設定ファイルに記述しておくことでログに追加できます。

7。初期設定ファイル

fxlog.cfg が初期設定ファイルです。

[DIRECTORY]

各ファイルの格納ディレクトリを指定します。

[CATALOG]

天体カタログのファイル名を指定します。

このファイルはアンテナ制御で使用するファイルと同じにして下さい。

[STATION]

局コードと位置を指定します。

[COMMON]

固定ログ項目を記述します。

ここで指定された項目は /VERAEXPER/,/STATION/ の直後に追加されます。

[DFU モード名]

COMMON ブロックと同様ですが、スケジュールに記述されている DFU モードと同名のブロックのみが使用されます。